

例年新潟の梅雨といっても比較的雨日が少なく晴天の日が多いのですが、今年は特に降水量が少なく、台風9号が朝鮮半島に上陸した7月13日にはフェン現象もあって38℃を記録し、西日本に大雨の被害をもたらした台風11号も日本海に抜けた18日から雨も殆ど降らず30℃を越える日が続いています。

したがって、この時期大切な圃場管理作業である中干し作業でも気が抜けない日々が続きます。先月号でもお知らせしましたが、最初の水抜き（中干し）を6/16から開始し、7/3から灌水行いました。2回目の水抜き（中干し）を7/11から行いましたが、前述のフェン現象で7/13に38℃となったことから急ぎ大量の水入れを行い暑さ対策を行いました。現在7/18から3回目の中干しを行っていますが、21日に梅雨明けとなったこともあり圃場の乾燥具合をみて、短期間で灌水を行いたいと思っています。

**中干しによる圃場の乾燥状況**



**定点生育調査(茎長65cm)**



**茎数(23~28本)に生育**



**中干しの効果と必要性として**、①無効分茎（穂にならない茎）の抑制、②圃場に酸素の供給促進、③茎の伸長抑制で倒伏防止、④田面の硬化で収穫作業の容易性向上等いわれています。稲は元々水を好む植物で植えられてから、収穫時まで根本までの灌水状態で生育しますが、これでは根が浅く、茎が伸び、穂にならない茎が繁茂し、倒伏や、病気になりやすい弱い稲になってしまいます。

私は植えられた稲を甘やかさず、少し厳しい条件で育てるために、この中干しをする必要があると思っています。中干しで田面の水がなくなることから、根は水を求め、地中深くまで伸びて、水と共に、地中深くにある肥料分まで吸収してくれます。この効果で倒伏しない、丈夫な稲となって、秋の収穫時に大きな差が出ることにつながるのではと思っています。

**7月3日にリン酸+苦土のみの追肥を実行**

**追肥の効果と必要性について**、この時期JA等の稲作り手法としては、稲の生育状況により追肥を奨励していますが、動力散布機等で田面に窒素を含む追肥を行うと、せっかく地中深く伸びようとした根が、地表に戻ってしまうのではと思っています。

このような考えから、当農園での追肥は、稲の開花と籾の結実に効果のある**リン酸**と稲葉緑素形成に効果のある**苦土**のみを使用しています。窒素等については、昨年秋耕転時にすき込んだ有機肥料等が地中深くに眠っていることから、中干しにより、これらの肥料成分を有効に吸収してもらうこととしています。この考えは、あくまで妙高西条農園圃場管理者・・・池田肝太の栽培方針です。

**大規模経営圃場(手前)と当農園圃場(上部)の稲の生育状況** H27.7.20撮影



今シーズンは、近隣農家の現状と実態について、述べていますが、左の写真は手前が当圃場より約1ヶ月後の6月中旬に田植えを行い、やっと茎長30cm程に生長し、満水に灌水されていますが、上部の当農園圃場では茎長65cm程に生長し中干しが必要な状況です。**あまりにも作業時期が違うため畦越えて水が侵入し中干し作業が、うまく実行できない現状です。**

発行者：〒944-0023 新潟県妙高市西条755  
妙高西条農園長 池田博子  
☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908  
URL : <http://www.kanta.jp> E-mail : [ikedata@kanta.jp](mailto:ikedata@kanta.jp)